

ファンドのMIRAI

レポートの概要

資産クラス 四半期ごと騰落率

- 日本株式、外国債券といった資産クラスの四半期ごとの騰落率の比較です

資産クラス 期間騰落率

- 日本株式、外国債券といった資産クラスの期間騰落率の比較です

比較母集団に含まれるバランス型ファンド（8本）

- レポートで分析しているファンドを紹介します

バランス型ファンドの運用は効率的か

- リスク・リターン平面を使って効率性を確認します

リスクの測定

- 月間騰落率を使ってファンドのリスクを測定します

積立投資の結果（トータル・リターン）

- 積立投資を行ったときの結果を比較します

NISA・手数料の効果

- NISA・手数料の影響を測定します

今月のピックアップファンド

- 個別ファンドを取り上げて分析します

個別ファンドのレポート×8本

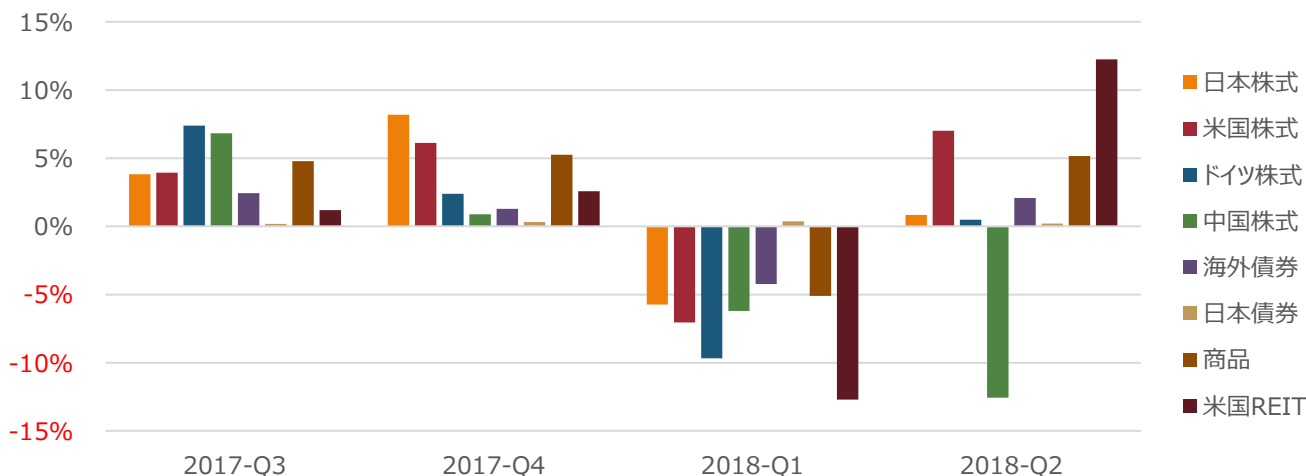
- 個別ファンドのレポートです

ファンドのMIRAI

2018年6月号

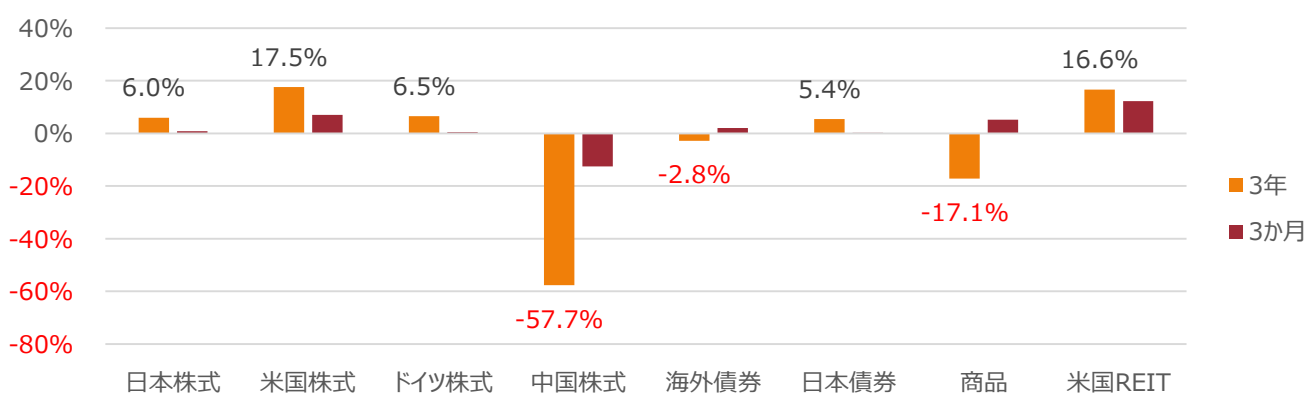
資産クラス 四半期ごと騰落率【2013年7月-2018年6月】

四半期	日本株式	米国株式	ドイツ株式	中国株式	海外債券	日本債券	商品	米国REIT
2017-Q3	3.8% ★ 5	3.9% ★ 4	7.4% ★ 1	6.8% ★ 2	2.4% ☆ 6	0.2% ★ 8	4.8% ★ 3	1.2% ★ 7
2017-Q4	8.2% ★ 1	6.1% ★ 2	2.4% ☆ 5	0.9% ★ 7	1.3% ☆ 6	0.3% ★ 8	5.2% ★ 3	2.6% ☆ 4
2018-Q1	-5.7% ★ 4	-7.1% ☆ 6	-9.7% ★ 7	-6.2% ★ 5	-4.2% ★ 2	0.4% ★ 1	-5.1% ★ 3	-12.7% ★ 8
2018-Q2	0.8% ★ 5	7.0% ★ 2	0.5% ☆ 6	-12.6% ★ 8	2.1% ★ 4	0.2% ★ 7	5.2% ★ 3	12.2% ★ 1



資産クラス 期間騰落率【2013年7月-2018年6月】

期間	日本株式	米国株式	ドイツ株式	中国株式	海外債券	日本債券	商品	米国REIT
3年	6.0% ★ 4	17.5% ★ 1	6.5% ★ 3	-57.7% ★ 8	-2.8% ☆ 6	5.4% ★ 5	-17.1% ★ 7	16.6% ★ 2
1年	7.1% ★ 3	10.0% ★ 2	0.6% ★ 7	-11.1% ★ 8	1.6% ★ 5	1.1% ☆ 6	10.1% ★ 1	3.3% ★ 4
6か月	-4.9% ☆ 6	-0.1% ★ 3	-9.2% ★ 7	-18.8% ★ 8	-2.2% ★ 5	0.6% ★ 1	0.1% ★ 2	-0.5% ★ 4
3か月	0.8% ★ 5	7.0% ★ 2	0.5% ☆ 6	-12.6% ★ 8	2.1% ★ 4	0.2% ★ 7	5.2% ★ 3	12.2% ★ 1
1か月	-1.0% ☆ 6	2.2% ★ 3	-0.7% ★ 5	-10.3% ★ 8	3.8% ★ 2	0.0% ★ 4	-1.3% ★ 7	5.8% ★ 1



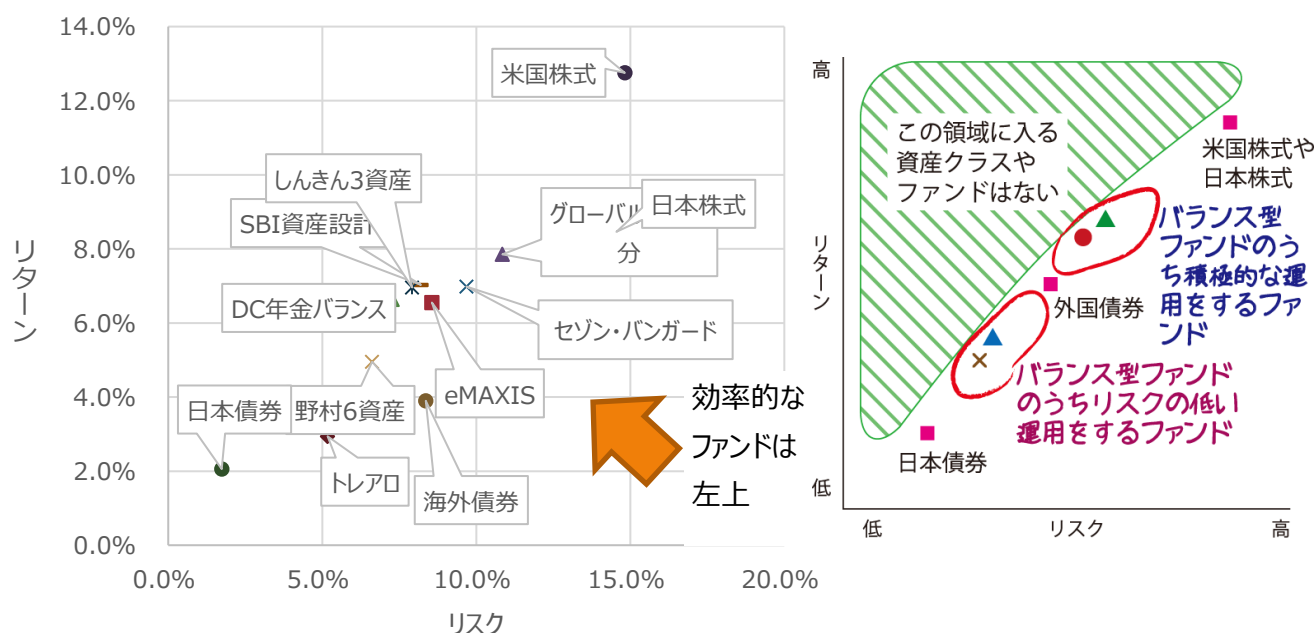
ファンドのMIRAI

比較母集団に含まれるバランス型ファンド（8本）

表記	正式名称	表記	正式名称
eMAXIS	eMAXIS バランス（8資産均等型）	野村6資産	野村世界6資産分散投信(分配コース)
セゾン・バンガード	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	SBI資産設計	SBI資産設計オープン（資産成長型）
DC年金バランス	三井住友・DC年金バランス50（標準型）	トリアロ	トレンド・アロケーション・オープン
グローバル財産3分	グローバル財産3分法ファンド（毎月決算型）	しんきん3資産	しんきん3資産ファンド（毎月決算型）

このレポートに掲載されているファンドは、①運用成績が悪くないこと②運用実績が5年以上あること③資産運用残高が大きいこと④ウェブサイト過去の基準価額等が十分に公開されていること⑤できるだけ多くの販売会社を取り扱っていること⑥バランス型ファンドであることという条件を基準に選択されています。比較母集団のファンドは、今後、入れ替えられる可能性があります。

バランス型ファンドの運用は効率的か【2013年7月-2018年6月】



バランス型ファンドと代表的な資産クラス（日本株式、米国株式、外国債券、日本債券）をリスク（横軸）とリターン（縦軸）で表すと図のようになります。合理的な投資家は、リスクが低くて、リターンが高い資産を好みます。つまり、図のより左上の位置にあるファンドが合理的な投資家に選ばれる、効率的な運用をしているファンドということになります。しかし、「リスクが低くてリターンが高い」という投資家にとって都合がよいファンドは存在しませんから、ファンドは右上がりのラインに沿って並ぶこととなります。このラインのことを、「効率的フロンティア」といいます。

シャープレシオ

リスクとリターンの2つの属性を一つにまとめた指標がシャープレシオです。シャープレシオは、次の式で計算されます。

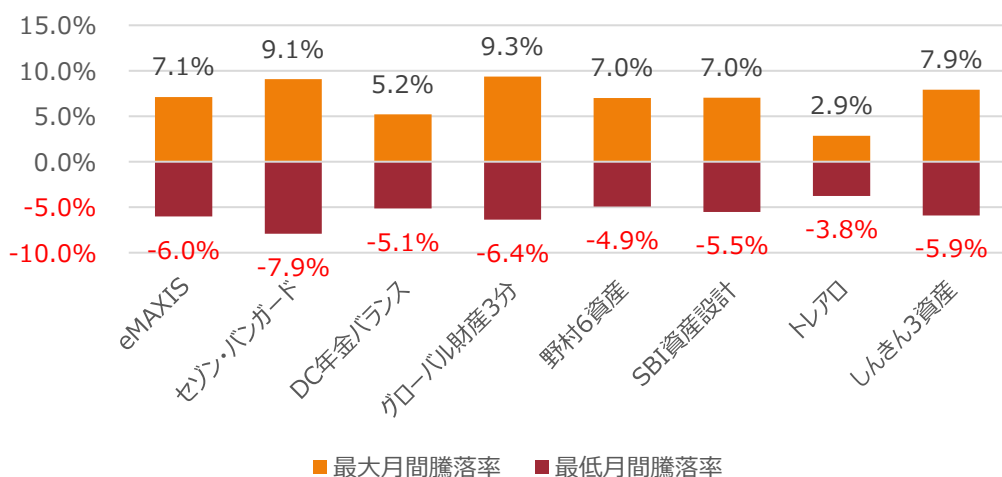
$$\text{シャープレシオ} = \frac{(\text{ファンドのリターン} - \text{普通預金の金利})}{\text{ファンドのリスク}}$$

	eMAXIS	セゾン・バンガード	DC年金バランス	グローバル財産3分	野村6資産	SBI資産設計	トリアロ	しんきん3資産
シャープレシオ	0.65	0.62	0.78	0.63	0.60	0.73	0.38	0.75
順位	4	6	1	5	7	3	8	2

シャープレシオは、数値が大きいほど投資効率がよい（リスクが小さくリターンが大きい）ことを表しています。

リスクの測定【2013年7月-2018年6月】

過去5年間の最高・最低月間騰落率

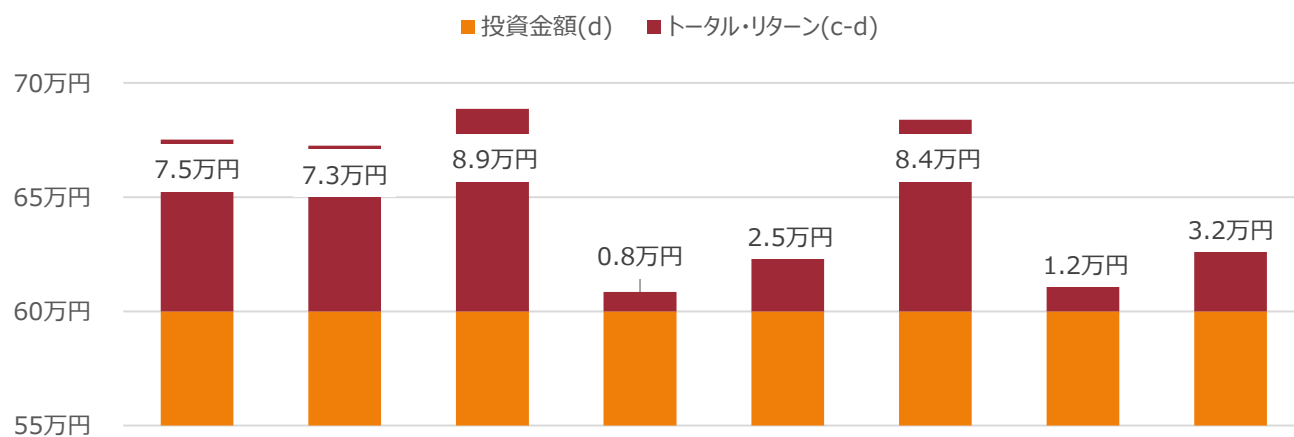


直近5年間【2013年7月-2018年6月】の月ごとの騰落率（リターン）の最高値と最低値を比較したものです。最高値と最低値の幅が広いとリスクが高い（騰落率のブレが大きい）、小さいとリスクが低い（騰落率のブレが小さい）ことがわかります。トレンド・アロケーション・オープン・オープン・オープン・オープン・オープン・オープン・オープン・オープンのリスクが小さいことが確認できます。

リスクは、騰落率（リターン）の変動の大きさ（標準偏差）で表されることが一般的ですが、一定の期間を採って、その期間内の最高の騰落率と最低の騰落率を同時に示すことでリスクのイメージをつかむことができます。

積立投資の結果（トータル・リターン）【2013年7月-2018年6月】

トータル・リターンは、ファンドの値上がりまたは値下がりによる増減分（キャピタルゲイン）と収益分配金による増加分（インカムゲイン）を合算した、ファンドのトータルの増減分です。ここでは、直近5年間、毎月1万円ずつ投資をしていたとしてトータルリターンがいくらになったのかを試算しています。

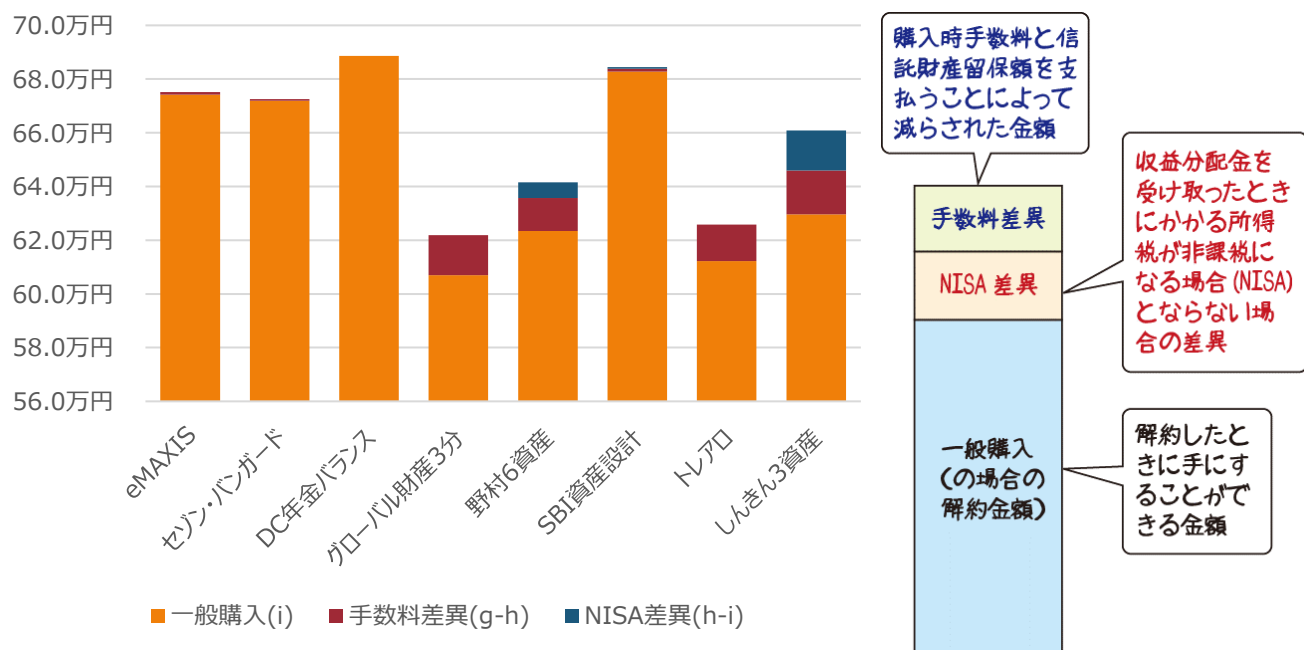


項目	eMAXIS	セゾン・バンガード	DC年金バランス	グローバル財産3分	野村6資産	SBI資産設計	トレアロ	しんきん3資産
基準価額(a)	19,334	14,243	15,676	8,033	9,991	14,948	12,126	8,040
保有口数(b)	349,234	472,208	439,300	757,444	625,817	457,481	504,925	785,550
評価金額(c)	67.5万円	67.3万円	68.9万円	60.8万円	62.5万円	68.4万円	61.2万円	63.2万円
投資金額(d)	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円	60.0万円
トータル・リターン(c-d)	7.5万円	7.3万円	8.9万円	0.8万円	2.5万円	8.4万円	1.2万円	3.2万円
購入時手数料	0.00%	0.00%	0.00%	2.16%	1.62%	0.00%	2.16%	2.16%

購入時手数料は、各ファンドを購入できる金融機関から代表的な金融機関を選んで採用しています。購入時手数料は、金融機関によって異なることがありますし、同一の金融機関でも購入経路により異なる場合があります。分配金は税金（一律20.315%）控除後、再投資するように設定しています。

NISA・手数料の効果【2013年7月-2018年6月】

ここでは、一般でファンドを購入したときとNISAを通じてファンドを購入したときの差異を、手数料（購入時手数料・信託財産留保額）の水準と（収益分配金に対する）税金の水準を明らかにしています。なお、iDeCoを含む確定拠出年金の場合の試算もNISAの場合と全く同じになります。



項目	eMAXIS	セゾン・バンガード	DC年金バランス	グローバル財産3分	野村6資産	SBI資産設計	トレアロ	しんきん3資産
基準価額(a)	19,334	14,243	15,676	8,033	9,991	14,948	12,126	8,040
保有口数								
手数料なし(e)	349,234	472,208	439,300	774,167	642,122	457,928	516,069	821,908
NISA適用(f)	349,234	472,208	439,300	757,444	631,722	457,928	504,925	804,149
一般購入(b)	349,234	472,208	439,300	757,444	625,817	457,481	504,925	785,550
信託財産留保	0.15%	0.10%	0.00%	0.25%	0.30%	0.15%	0.00%	0.30%
解約価額								
手数料なし(g)	67.5万円	67.3万円	68.9万円	62.2万円	64.2万円	68.5万円	62.6万円	66.1万円
NISA適用(h)	67.4万円	67.2万円	68.9万円	60.7万円	62.9万円	68.3万円	61.2万円	64.5万円
一般購入(i)	67.4万円	67.2万円	68.9万円	60.7万円	62.3万円	68.3万円	61.2万円	63.0万円
手数料差異(g-h)	0.1万円	0.1万円	0.0万円	1.5万円	1.2万円	0.1万円	1.4万円	1.6万円
NISA差異(h-i)	0.0万円	0.0万円	0.0万円	0.0万円	0.6万円	0.1万円	0.0万円	1.5万円

グローバル財産3分法ファンド（毎月決算型）、野村世界6資産分散投信(分配コース)、トレンド・アロケーション・オープン、しんきん3資産ファンド（毎月決算型）の4つのファンドは、ノーロードファンド（購入時手数料がゼロのファンド）ではありませんので、手数料差異が大きくなっています。さらに、しんきん3資産ファンド（毎月決算型）は毎月の収益分配金が（ほかのファンドに比べて）相対的に大きいのでNISA差異が大きくなっています。その他のファンドは、ノーロードファンドかつ収益分配金がほぼゼロになっており、効率的な運用ができることがわかります。

■ 今月のピックアップファンド（三井住友・DC年金プラン・ファンド（ターゲット・イヤー型）2040）

ファンドの特徴

このファンドは、年数の経過とともに資産配分比率を（リスクの低い資産クラスのウェイトが大きくなるように）変化させる、ターゲットイヤー型のファンドです。2018年1月末時点のポートフォリオは、日本株式に37%、日本債券に34%、外国債券に10%、外国株式17%、預金等に2%投資することを基本にしています。各資産クラスの中ではパッシブ運用となっています。日本への投資割合が7割を超えることから、主として、日本の資産に投資を行い、分散効果の観点から海外の資産にも投資しているバランス型ファンドといえるでしょう。

このファンドはファンドレポートに定期的に掲載しているファンドではありませんが、シャープレシオで比較した、ファンドの運用成果は、ファンドレポートに掲載している8ファンドと比較すると4番目に位置するファンドになります。

運用資産残高は2018年6月末時点で約25億円です。2001年に設定された古いファンドであり資産残高は緩やかに増加し続けていますが、2015年に大きく資産残高が増えていることがわかります。

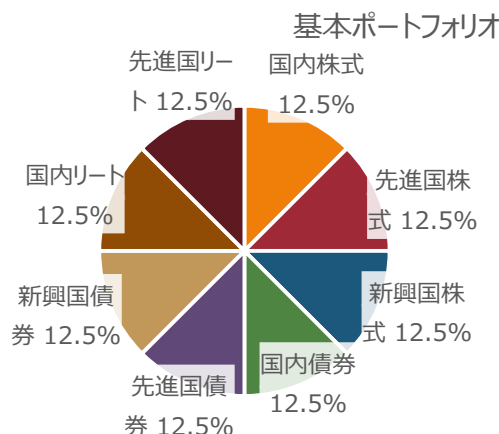
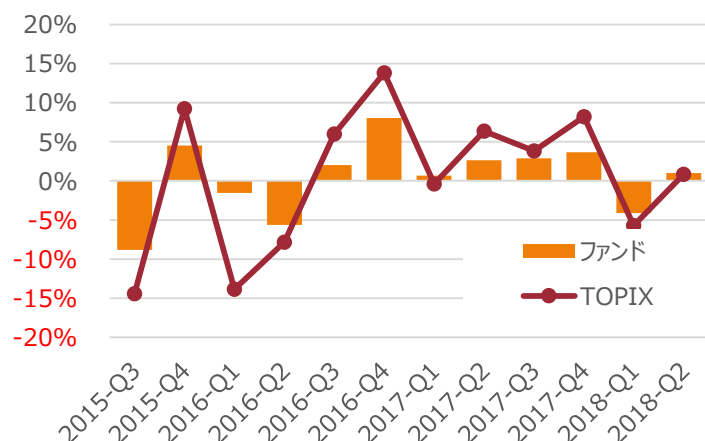
このファンドは、確定拠出年金専用ファンドになっています。そして、販売会社は三井住友銀行1社のみになっています。

コメント

ポートフォリオ	現在は、日本株式に37%、日本債券に34%、外国債券に10%、外国株式17%、預金等に2%投資することを基本にしたポートフォリオ
運用体制	ファンドは三井住友アセットマネジメント株式会社 の設定する機関投資家向け専用ファンドを使って運用されます
アクティブ/パッシブ	すべての資産クラスの運用はパッシブ運用
販売会社の特徴	三井住友銀行のみ
資産残高の推移	設定（2001年3月）以来、緩やかに資産残高は増加しているが、2015年に資産残高が大きく増加している時期がある
購入時手数料	購入時手数料はない
信託報酬	信託報酬は、年0.539%程度である
収益分配金	ファンドの決算は毎年12月。過去収益分配金を支払った実績はない
運用成果	年換算化したリターンはレポートに定期的に掲載されている8ファンドと比べて2番目。リスクはレポートに掲載されているファンドの平均程度。そのため、リスクを加味したリターンをシャープレシオを使って計算してみると、8ファンド中上位3位に位置する
積立投資	計算は行っていないが、ファンドのパフォーマンス自体は良好であるので、購入時手数料がない（ノーロード）の金融機関・経路で購入すると良好な結果が得られるであろう
解約	このファンドにおける信託財産留保額は無いが、投資する投資信託にはそれぞれ信託財産留保額が設定されている。
NISA&積立投資	確定拠出年金専用ファンドのため、NISA等は対象外

ファンドのMIRAI

■ eMAXIS バランス (8資産均等型) 【eMAXIS】



ファンドのしくみ・手数料・税金など

運用会社	三菱UFJ国際投信		
信託銀行	三菱UFJ信託銀行		
販売会社	SBI証券、静岡銀行、三菱東京UFJ銀行ほか		
購入時手数料	なし		
信託財産留保額	0.15%	純資産総額	267億円
信託報酬	0.54%		

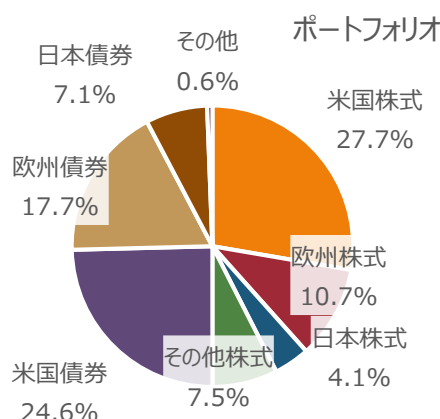
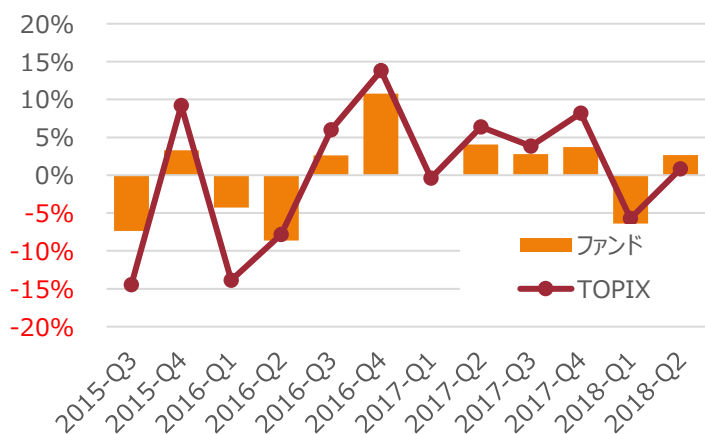
ファンドの運用

期待リターン	6.6%	6位/8ファンド	
予想リスク	8.6%	6位/8ファンド	
日本株式(TOPIX)との連動性	85%		
直近4半期のリターンと相対順位			

税金	対象	税率	NISA, iDeCo
税金	収益 (普通) 分配金	20.315%	なし
	換金・償還益	20.315%	なし

四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2017-Q3	2.9%	1	3.8%
2017-Q4	3.7%	2	8.2%
2018-Q1	-4.1%	2	-5.7%
2018-Q2	1.0%	4	0.8%

■ セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド【セゾン・バンガード】



ファンドのしくみ・手数料・税金など

運用会社	セゾン投信		
信託銀行	野村信託銀行		
販売会社	セゾン投信		
購入時手数料	なし		
信託財産留保額	0.10%	純資産総額	1,603億円
信託報酬	0.68%		

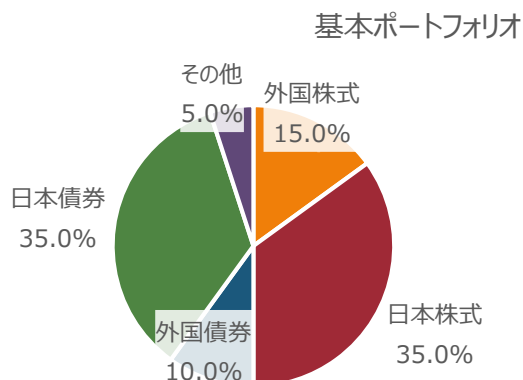
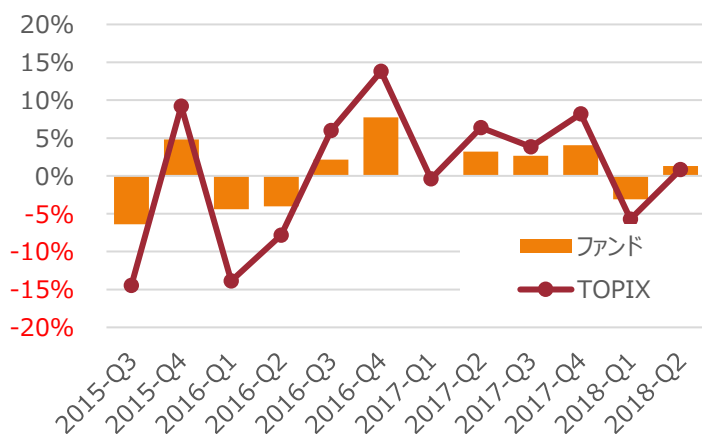
ファンドの運用

期待リターン	7.0%	3位/8ファンド	
予想リスク	9.7%	7位/8ファンド	
日本株式(TOPIX)との連動性	84%		
直近4半期のリターンと相対順位			

税金	対象	税率	NISA, iDeCo
税金	収益 (普通) 分配金	20.315%	なし
	換金・償還益	20.315%	なし

四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2017-Q3	2.8%	2	3.8%
2017-Q4	3.7%	2	8.2%
2018-Q1	-6.4%	4	-5.7%
2018-Q2	2.6%	2	0.8%

■ 三井住友・DC年金バランス50（標準型）【DC年金バランス】



ファンドのしくみ・手数料・税金など

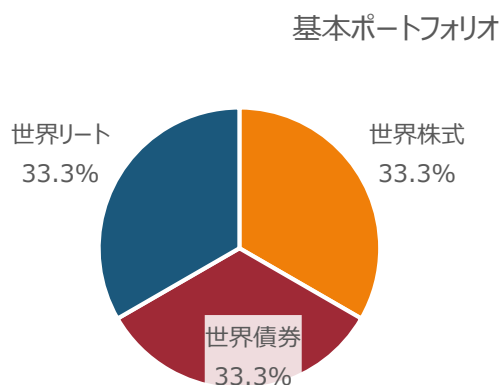
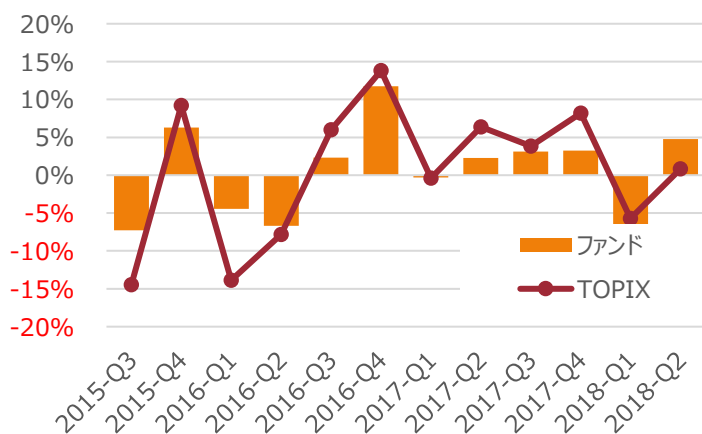
運用会社	三井住友アセットマネジメント		
信託銀行	三井住友信託銀行		
販売会社	SBI証券、楽天証券、マネックス証券ほか		
購入時手数料	なし		
信託財産留保額	なし	純資産総額	254億円
信託報酬	0.2484%		

ファンドの運用

期待リターン	6.6%	5位/8ファンド	
予想リスク	7.3%	3位/8ファンド	
日本株式(TOPIX)との連動性	97%		
直近4半期のリターンと相対順位			
四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2017-Q3	2.7%	2	3.8%
2017-Q4	4.0%	1	8.2%
2018-Q1	-3.1%	1	-5.7%
2018-Q2	1.3%	3	0.8%

税金	対象	税率	NISA,iDeCo
税金	収益(普通)分配金	20.315%	なし
	換金・償還益	20.315%	なし

■ グローバル財産3分法ファンド（毎月決算型）【グローバル財産3分】



ファンドのしくみ・手数料・税金など

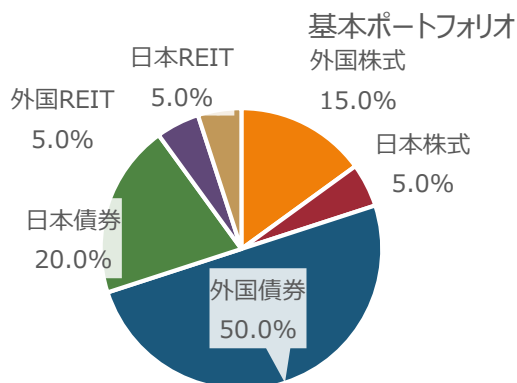
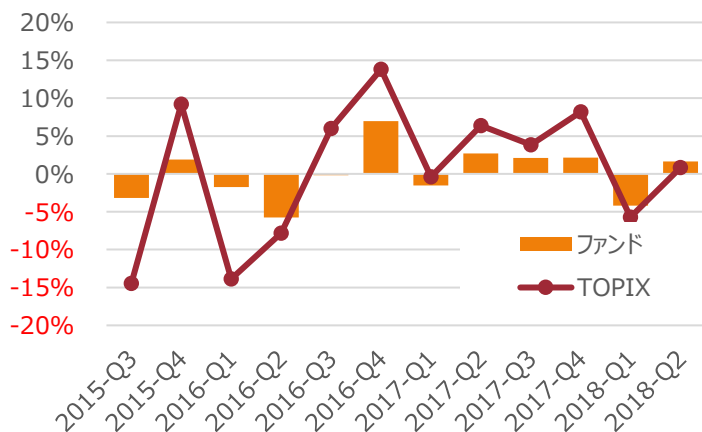
運用会社	三菱UFJ国際投信		
信託銀行	三菱UFJ信託銀行		
販売会社	SBI証券、十六銀行、リテラ・クリア証券ほか		
購入時手数料	3.24%	(上限)	
信託財産留保額	0.25%	純資産総額	146億円
信託報酬	1.5444%		

ファンドの運用

期待リターン	7.9%	1位/8ファンド	
予想リスク	10.8%	8位/8ファンド	
日本株式(TOPIX)との連動性	78%		
直近4半期のリターンと相対順位			
四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2017-Q3	3.1%	1	3.8%
2017-Q4	3.3%	4	8.2%
2018-Q1	-10.0%	4	-5.7%
2018-Q2	4.8%	1	0.8%

税金	対象	税率	NISA,iDeCo
税金	収益(普通)分配金	20.315%	なし
	換金・償還益	20.315%	なし

■ 野村世界6資産分散投信(分配コース)【野村6資産】



ファンドのしくみ・手数料・税金など

運用会社	野村アセットマネジメント		
信託銀行	野村信託銀行		
販売会社	ゆうちょ銀行		
購入時手数料	1.62%		
信託財産留保額	0.30%	純資産総額	1,170億円
信託報酬	0.7452%		

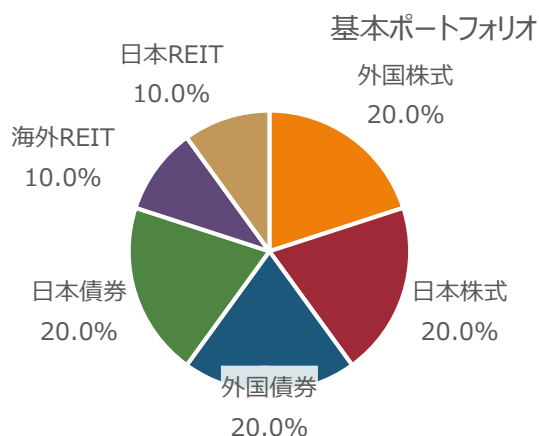
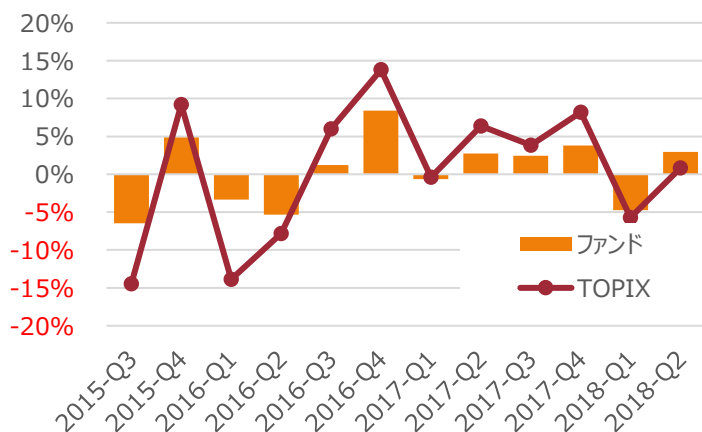
ファンドの運用

期待リターン	5.0%	7位/8ファンド
予想リスク	8.2%	5位/8ファンド
日本株式(TOPIX)との連動性	76%	
直近4半期のリターンと相対順位		

四半期	ファンド (%)	四分位	TOPIX(参考) (%)
2017-Q3	2.1%	3	3.8%
2017-Q4	2.2%	4	8.2%
2018-Q1	-4.2%	3	-5.7%
2018-Q2	1.6%	2	0.8%

税金	対象	税率	NISA,iDeCo
税金	収益(普通)分配金	20.315%	なし
	換金・償還益	20.315%	なし

■ SBI資産設計オープン(資産成長型)【SBI資産設計】



ファンドのしくみ・手数料・税金など

運用会社	三井住友トラスト・アセットマネジメント		
信託銀行	三井住友信託銀行		
販売会社	SBI証券		
購入時手数料	なし		
信託財産留保額	0.15%	純資産総額	279億円
信託報酬	0.7344%		

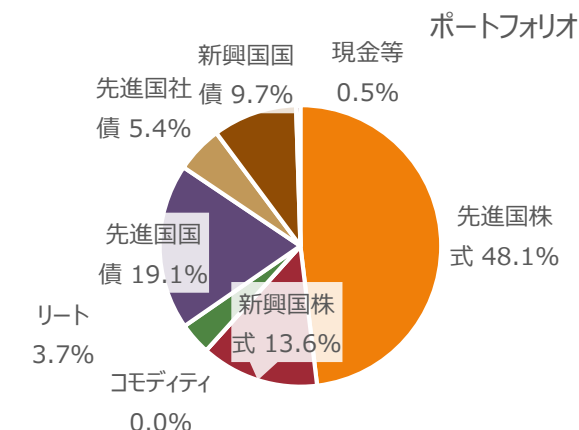
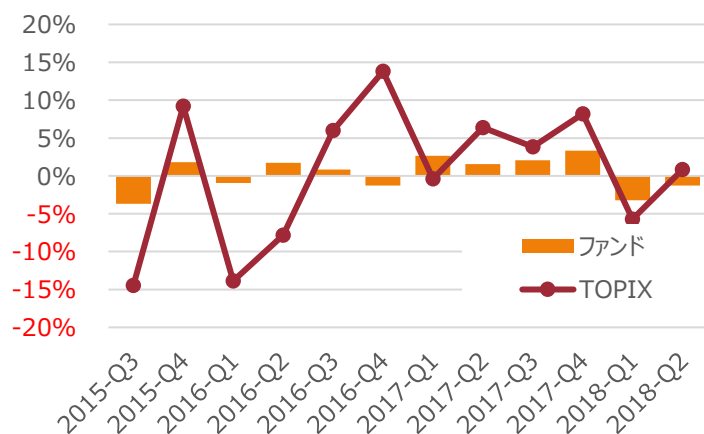
ファンドの運用

期待リターン	7.0%	2位/8ファンド
予想リスク	8.2%	5位/8ファンド
日本株式(TOPIX)との連動性	89%	
直近4半期のリターンと相対順位		

四半期	ファンド (%)	四分位	TOPIX(参考) (%)
2017-Q3	2.5%	3	3.8%
2017-Q4	3.8%	1	8.2%
2018-Q1	-4.7%	3	-5.7%
2018-Q2	2.9%	1	0.8%

税金	対象	税率	NISA,iDeCo
税金	収益(普通)分配金	20.315%	なし
	換金・償還益	20.315%	なし

■ トレンド・アロケーション・オープン【トレアロ】



ファンドのしくみ・手数料・税金など

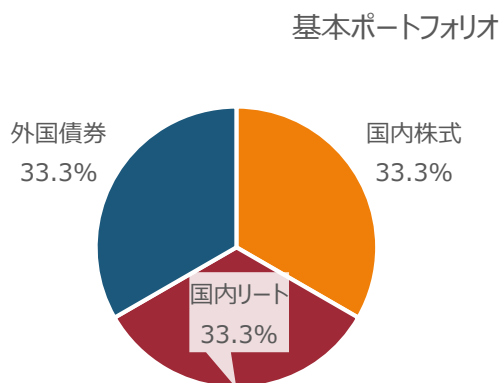
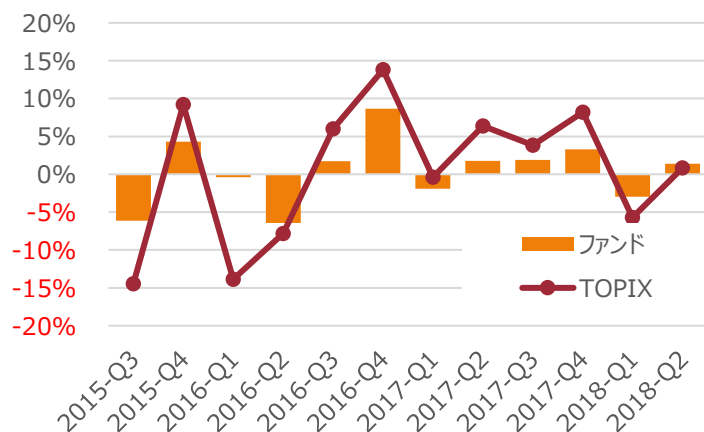
運用会社	三菱UFJ国際投信		
信託銀行	三菱UFJ信託銀行		
販売会社	SBI証券、紀陽銀行、三菱東京UFJ銀行ほか		
購入時手数料	2.16%	(上限)	
信託財産留保額	なし	純資産総額	1,582億円
信託報酬	1.1704%		

ファンドの運用

期待リターン	2.9%	8位/8ファンド	
予想リスク	5.2%	1位/8ファンド	
日本株式(TOPIX)との連動性			48%
直近4半期のリターンと相対順位			
四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2017-Q3	2.1%	4	3.8%
2017-Q4	3.3%	3	8.2%
2018-Q1	-3.2%	2	-5.7%
2018-Q2	-1.3%	4	0.8%

	対象	税率	NISA,iDeCo
税金	収益(普通)分配金	20.315%	なし
	換金・償還益	20.315%	なし

■ しんきん3資産ファンド(毎月決算型)【しんきん3資産】



ファンドのしくみ・手数料・税金など

運用会社	しんきんアセットマネジメント		
信託銀行	しんきん信託銀行		
販売会社	京都中央信用金庫、多摩信用金庫ほか		
購入時手数料	2.16%	(上限)	
信託財産留保額	0.30%	純資産総額	522億円
信託報酬	1.0260%		

ファンドの運用

期待リターン	7.0%	4位/8ファンド	
予想リスク	7.9%	4位/8ファンド	
日本株式(TOPIX)との連動性			83%
直近4半期のリターンと相対順位			
四半期	ファンド	四分位	TOPIX(参考)
2017-Q3	1.9%	4	3.8%
2017-Q4	3.3%	3	8.2%
2018-Q1	-3.0%	1	-5.7%
2018-Q2	1.4%	3	0.8%

	対象	税率	NISA,iDeCo
税金	収益(普通)分配金	20.315%	なし
	換金・償還益	20.315%	なし

2018年6月の世界の市況

日付	曜日	市況
2018/6/1	金	トランプ大統領がメキシコ、カナダ、EUからの関税引き上げを公表し、米国のみならず欧州の株価も下落。米国市場では原油や金の価格が下落し、国債のイールドも下落。ドイツバンクの米国でのオペレーションがFedの監視対象になり、同株は7.1%下落し史上最安値となった。イタリアでは親ユーロ的な政権が誕生する見込みとなり不安は解消されたが、ドイツではティessenクルップなどの鉄鋼関連やBMWなどの自動車銘柄が多く値を下げ、DAXは1.4%の大幅な下落になった
2018/6/4	月	米国では公表された労働統計が予想以上によく、また、失業率も3.8%と18年ぶりの低水準にまで下落した。アップル、アルファベット、マイクロソフトといったテクノロジー株がけん引して市場は上昇。欧州ではイタリアで連立政権が樹立され、政情不安が低減したことからイタリアの銀行株を中心に値上がり。ドイツ株もリバウンドしたが、SUVの強化と電気・ハイブリット車開発に90億ユーロを投資すると公表したフィアット・クライスラーは4.5%値を下げた
2018/6/5	火	米国市場では原油価格が下落してエネルギー銘柄が値を下げたが、テクノロジー銘柄にけん引されて市場は上昇。アップルはカンファレンスでiOS12を公表し0.8%値を上げた。マイクロソフトはGitHub Incを買収してこちらも0.9%上昇。ボーイングはフランスの部品メーカーと提携を公表し上昇。一方で、バイオ関連は値を下げた。欧州市場でも株価は上昇。ソシエテ ジェネラルとウクレディの合併の話がFTで報じられ、ドイツバンクも2日連続のリバウンドとなり銀行関連が堅調
2018/6/6	水	米国市場では昨日に引き続きテクノロジー株が堅調。ISMサービス指数も堅調に伸びていることから耐久消費財関連も上昇。しかし、投資家は公益株や消費財関連に流れたためにイールドが低下し、銀行株は値を下げた。NASDAQは2日連続で史上最高値を更新。欧州では、米国のテクノロジー株にけん引されて、ASM、SAP、Infineonといったテクノロジー関連が値を上げたが、イタリアの銀行を中心に銀行株が値を下げたために市場全体としては値下がり
2018/6/7	木	米国では4月の貿易赤字が案外少なく第2四半期の成長率に寄与するとみられ、イールドは2週間来の高値。金融株を中心に値上がり。NASDAQは3日連続で史上最高値を更新。TeslaはCEOが6月末までの生産の維持を表明し9.7%値上がり。欧州ではECB幹部が経済は順調にインフレ目標に向かっていくとコメントし、債券購入プログラムの終えんの可能性が高まったとして、ユーロ高、イールド高。銀行株が堅調であったが、ロレアルほかの消費関連が弱く、市場は横ばい
2018/6/8	金	米国ではトランプ大統領がG7ミーティングを前に関税で強硬な姿勢を崩さず、国債が上昇。また、いわゆるディフェンシブと呼ばれる公益、消費財、通信などの銘柄が上昇。マイクとソフト、フェイスブックなどは値を下げ、NASDAQ、SP500は値下がり、ダウは値上がりとなった。欧州では、グッチの親会社KeringやルイビトンのLVMHなどの高級財銘柄が値を下げた。ECBのチーフエコノミストが債券購入プログラムの終了についてもっと明確にすると発言しイールドが上昇し、銀行株が値を上げたが、イタリアの銀行は格下げで値下がり
2018/6/11	月	米国ではヘルスケアと消費財関連の銘柄が堅調で値を上げたが、市場は来週の各中央銀行のミーティングに注目が移っており、取引は薄商い。P&Gやフィリップモリスなどが大きく値を上げた。アップルは今年のiPhoneの製造を予想以下に抑えるとして、同株とサプライヤー関連銘柄が値を下げた。欧州ではドイツ、イタリアが大きく値下がり。イタリアの銀行株は2%値を下げ、ドイツでも合併話が立ち消えになったドイツバンクとコメルツバンクはいずれも値を下げた。
2018/6/12	火	米国では、投資家は今秋開催されるFed、ECB、BOJのそれぞれの会合に注目がいつている。米国債はオークションでの需要が高く値上がり。米国の株式市場は幾分値上がり。欧州ではイタリアの新財務相がユーロに留まることを明言し、銀行株とイタリア株はそれぞれ大きく上昇。市場全体も値上がり

2018年6月の世界の市況

日付	曜日	市況
2018/6/13	水	米朝首脳会談は米国の防衛銘柄を少し下げさせた程度で市場にはほぼインパクトのないイベントになった。米国では、4月の消費者物価指数がガソリンの上昇もあり0.2%の上昇となった。インフレは予想とおりになっているが、Fedは今回利上げを行う予定であり、焦点は年3回または4回の利上げになるかどうかである。市場はテクノロジー株と公益株がけん引して上昇。欧州市場では、エネルギー・資源関連が軟調で市場全体も下げた
2018/6/14	木	Fedは予想とおり金利を0.25%引き上げ、2018年にさらに金利を2回引き上げると示唆し、金利引き上げに積極的な姿勢を示す。株式市場の主要な3指数はともに下落。タイム・ワーナーを買収するAT&Tは6.2%値を下げ、買収される側のタイム・ワーナーは1.8%値を上げた。その他、コムキャストから買収提案を受けている21世紀FOXは7.7%上昇。欧州ではFedの決定前であったが、zaraの親会社であるInditexが業績好調で値を上げ、テクノロジー関連も上昇して市場全体も値上がり
2018/6/15	金	ECBが債券購入プログラムは年末で終了させるが金利を2019年半ばまで引き上げないことを決定し、米国の小売り販売が予想以上となりNASDAQは史上最高値を更新。ECBの金利引き上げが当面ないことからイールドが下落して金融株は軟化。公益、耐久消費財、通信関係は値を上げる。SP500は上昇したが、ダウは値を下げる。欧州市場でもECBの金利の見通しが市場を動かし、自動車、公益といった金利感応株が上昇し、銀行株は軟化した
2018/6/18	月	トランプ大統領が中国からの輸入品に対して7月6日から関税を課すると主張し、中国も航空機や大豆などの米からの輸入品に関税を課すると応じる。取引高は2月8日以来の高水準となったがダウとSP500はいずれもわずかに下落。ボーイングとキャタピラーは関税戦争のあおりで、それぞれ、1.3%と2.0%下落。原油価格は来週のOPECの会合を前に価格が下落し、エネルギー関連銘柄も軟化
2018/6/19	火	米中の関税戦争が激化する懸念から米国株式は下落。ボーイングやキャタピラーといった米中関係の代表になっている銘柄が下落し、インテルやフィリップモリスなども大きく下落。一方で、OPECの会合を前に原油価格が上昇しエネルギー株は上昇。メルケル政権に対してトランプ大統領が貿易不均衡で非難を浴びせ、フォルクスワーゲンやアディダスといった銘柄が大きく下落。ドイツ株式が1%近く下落し、欧州株式も軟化
2018/6/20	水	トランプ大統領が中国からの輸入品2000億ドルに対して10%の関税を課すると発言したことから、欧米市場は軒並み下落。米国市場ではダウは年初来からの騰落率がマイナスになった。値下がりした銘柄は、ボーイング、キャタピラー、Fedexなどで2%以上値を下げた。欧州市場もトランプ大統領のコメントに反応して、自動車、鉱業、テクノロジーなどの銘柄が軟化。また、エルメスやLVMHなどの高級品ブランドも値を下げた
2018/6/21	木	米国ではパウエルFRB議長が、金利を緩やかに上昇させる政策を明言し、市場ではイールドが上昇。FBやマイクロソフトが上昇しNASDAQは史上最高値を更新したが、ダウは米中の関税戦争の影響でわずかに軟化。中国元は対米ドルで1月以来の安値を更新。欧州では、サンタンデルやウニクレディといった銀行がけん引して市場を引き上げた。スイスのロツシュは米国のTesaroを買収すると報じられ上昇
2018/6/22	金	米国では、最高裁がオンラインショップに対する州税を承認し、Amazonをはじめとするオンラインショップが軟化。米中の貿易戦争の影響は依然として大きく、キャタピラーやボーイングといった銘柄が値を下げたことに加え、ドイツのダイムラーが2018年の収益の下方修正を公表。フォードやGMも値を下げ、OPECが増産に踏み切るとみられる原油に関してはエネルギー関連銘柄が値を下げる。欧州でもダイムラーのほかBMW、フォルクスワーゲンなどが値を下げ、加えてイタリアの銀行が値を下げて市場は下落
2018/6/25	月	OPECが緩やかな増産を決めたが、原油価格はWTI,Brentともに上昇。そのおかげで、欧米のエクソンモービル、シェブロン、Total、ロイヤルダッチシェルなどが株価上昇。米国では、マイクロソフト、Nvidiaなどのテクノロジー銘柄が軟化して、NASDAQは値下がり。ダウとSP500は上昇となった。欧州では、トランプ大統領がドイツ車の輸入に20%の関税を課すると発言したために、ダイムラー、BMW、フォルクスワーゲンなどの自動車株が軟化。ただし、ユーロ圏の民間ビジネス指標も改善したため、市場全体では上昇

2018年6月の世界の市況

日付	曜日	市況
2018/6/26	火	米国財務省が中国資本が25%以上入っている企業にテクノロジー企業を買収できなくする案を検討していると報じられ、欧米市場でテクノロジー株を中心に大きく値下がり。米国では、Facebook、Amazon、Netflix、AlphabetなどのいわゆるFANG銘柄が値を下げ、欧州では、Infinion、STMmicro、ASMLなどのテクノロジー株が値を下げた
2018/6/27	水	米国が同盟国にイランからの原油輸入を控えるように要請し原油価格が上昇、米国市場ではエネルギー銘柄が上昇。昨日値を下げたテクノロジー関連は、アップル、FB、Amazonなどがリバウンドして上昇。GEはヘルスケア部門を子会社化させることを公表し上昇。米国市場は上昇したが欧州市場は横ばいであった
2018/6/28	木	トランプ大統領が、テクノロジー企業に関する投資について中国資本が25%以上という規制ではなく、もっと全般的な規制にすると公表し、米国市場ではネガティブに受け止められ、欧州市場では好感を持って受け入れられた。米国市場では小型株中心のラッセル2000は1.7%と大きく下落。また、3年来の高値になっている原油価格に関連して、欧米市場でエネルギー関連銘柄が上昇

ファンドの MIRAI 解説

Akira Sugiyama

Sep 2017

目次

第 1 章	ファンドの MIRAI の内容	1
1.1	個別ファンドの分析	2
1.2	期間騰落率が必要になる理由	5

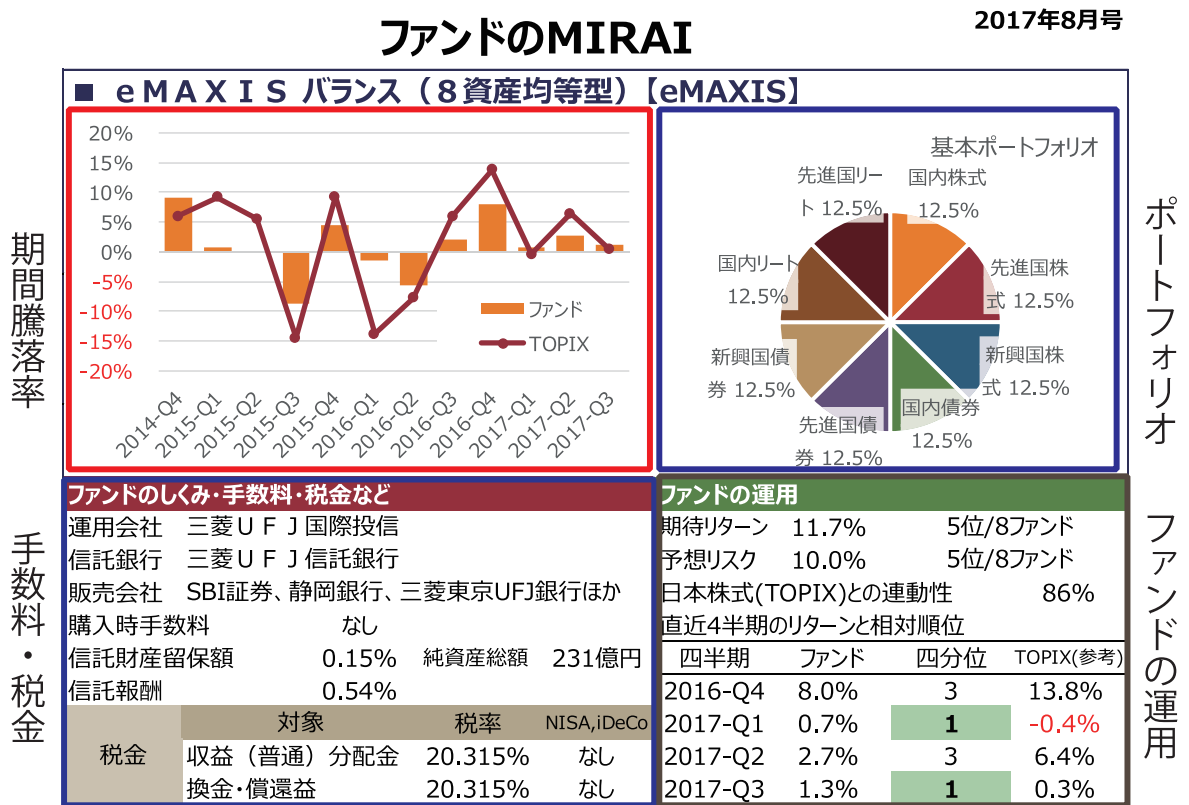
第1章

ファンドのMIRAIの内容

1.1 個別ファンドの分析

個別ファンドの分析部分は、図 1.1 のような構成になっている。左上から時計回りに、期間騰落率、ポートフォリオ、ファンドの運用、手数料・税金という4つのセクションに分かれている。

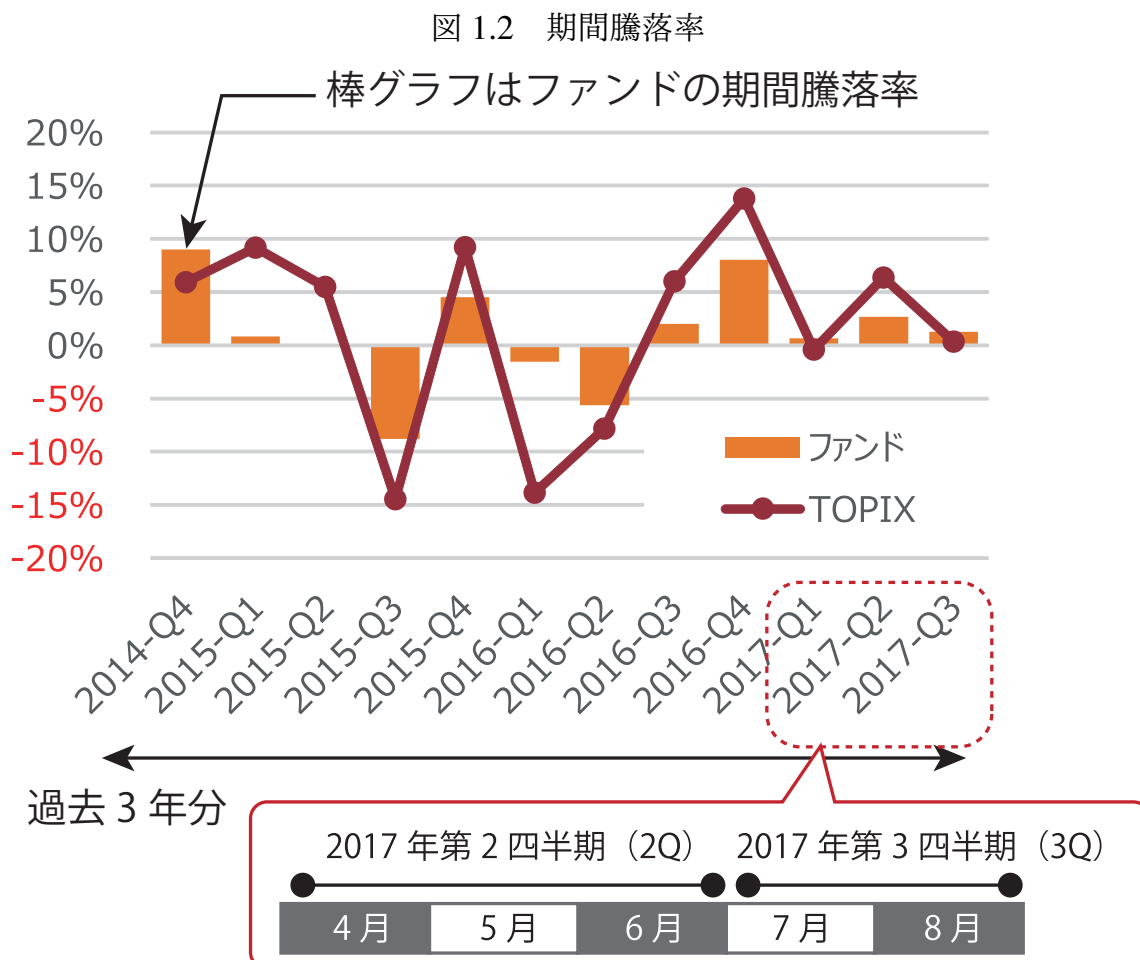
図 1.1 個別ファンドの画面構成



1.1.1 期間騰落率

ファンドのリターンの特性を理解するのに大切な期間騰落率についても掲載してある。期間騰落率が大切な理由は、1.2「期間騰落率が必要な理由」を参照してほしい。

ファンドの期間騰落率は過去 12 四半期*1分掲載してあり、最後の四半期は、1 か月または 2 か月になっている場合がある。



ファンドの期間騰落率は、日本株式の代表的な株式指数である東証株価指数 (TOPIX) の四半期騰落率と比較している。これはファンドのベンチマークに TOPIX が指定されているというわけではなく、私たちが感じる市場の動きを TOPIX で表現している。

*1 1 年を 1-3 月,4-6 月,7-9 月,10-12 月の 4 つに区切った期間

ファンドのMIRAIでの騰落率の計算
の騰落率の計算は下記のルールにより行っている

$$r_t = \ln \left(\frac{t \text{ 日末の基準価額} + \text{収益分配金 (税引き前)}}{t - 1 \text{ 日末の基準価額}} \right)$$

$$r^m = \prod_{\text{当月の営業日}} r_t$$

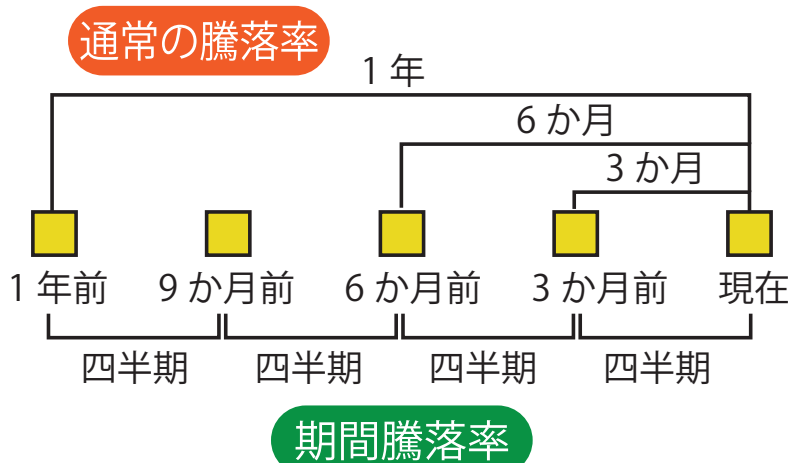
1.2 期間騰落率が必要になる理由

ファンドの基準価額の変動のことを「騰落率（とうらくりつ）」という。私たちが「リターン」と呼んでいるものであるが、運用報告書などには騰落率と記載されている。10,000 円だったファンドの基準価額が 11,000 円になったとすると、「騰落率は 10%」

$$\frac{11,000}{10,000} - 1 = 10\%$$

と計算される。つまり、ファンド（投資信託）に投資して儲かったのか、損したのかを測るものさしとなるものが騰落率ということになる。

図 1.3 期間騰落率



騰落率は重要な情報なので、運用報告書はもちろん、ファンドが独自に提供する月次レポートなどにも記載されている。そして、月次レポート、表示されている騰落率は、通常、「1 か月」、「3 か月」、「6 か月」、「1 年」、「3 年」などとなっている。この表示方法は、「1 年前に投資したのであればどの程度の利回りになっているだろう」という疑問に答えを与えてくれる。

しかし、1 年前に投資して、現在までどのような運用が行われていたのだろうという疑問には答えを提供してくれない。そして、その答えを用意

するためには、期間騰落率というものが必要になる。通常の騰落率と期間騰落率の違いは、図表 1.3 に示すとおりである。この例では、3 か月（四半期）を期間の単位としている。

通常の騰落率の計算では、直近の「3 か月」の部分がすべての期間で重なっているが、期間騰落率は、現在を基点にして四半期ごとの騰落率を計算しているので重複する部分がない。それゆえ、騰落率の計算の起点にかかわらず、ファンドの運用そのものに焦点を当てることが可能になる。